



2009 年度第 4 号



やまなみ

サンフランシスコ日本語補習校
理事会通信

2009 年 9 月 5 日

創立 40 周年記念シンポジウム報告

(小西理事長)

去る 8 月 22 日、サンフランシスコ日本語補習校の創立 40 周年を記念するシンポジウムが、パークレー市内の David Brower Center にて開催され、80 名を超える内外の関係者が多数参加し成功裡に終了しました。理事会から委嘱を受けた 40 周年記念行事実行委員会が企画運営したこのシンポジウムは、当校でも初めての試みであり、当日は「補習校の将来をみんなで考えよう」をテーマに、多くの方々によって支えられてきた過去 40 年を振り返るとともに、将来の方向性について幅広い方面から多くの貴重な御意見や御提言を拝聴致しました。

～長嶺総領事、当校 40 周年を記念して表彰～

冒頭のご来賓のご挨拶では、在サンフランシスコ総領事館 長嶺安政総領事が、祝辞の後、「補習校で学ぶ子供達が日本の良き理解者となり、世界で活躍できる人材に育っていくことを期待している」と述べられ、これまでの 40 年の歩みの中で当校が日加親善に寄与した功績を称えられ、総領事表彰を受けて頂きました。



表彰状

サンフランシスコ日本語補習校理事会 殿

貴殿はわが国とカリフォルニア州との相互理解及び友好親善に寄与しその功績顕著なものがあります。ここに深甚なる敬意を表するとともに表彰します。

平成 21 年 8 月 22 日

在サンフランシスコ日本国総領事 長嶺安政(公印)

これは、一重にこれまで御支援頂いた北加日本商工会議所、地元借用校、地元地域の多くの企業や住民の方々の暖かいご支援があったお陰であり、また、毎週土曜日に一生懸命通学を続けた一人一人の子供達の努力とそれを暖かく見守って頂いた保護者の皆様の熱意に対して贈られたものです。ここで改めて当校へ御支援を頂いた方々に厚く御礼を申し上げます。

～シンポジウムの内容～

朝 9 時から開催されたシンポジウムは、「補習校制度の歴史と基礎知識」、「補習校の現状と課題」、「各方面からの視点と提言」という大きく 3 つのテーマについて参加者による講演があり、「これからの補習校に望むこと」と題してパネルディスカッションも行われました。

文部科学省、井上恵嗣国際交流ディレクターは、海外にある在外教育施設について説明され、日本の小学校や中学校と同等の教育を全日制の学校で行う「日本人学校」と、平日は現地校やインターナショナル・スクールに通学する児童生徒を受け入れ、放課後や週末を利用して授業を行っている当校のような学校を「補習授業校」と説明、世界 56 カ国にある 204 校の補習授業校のうち、89 校が米国に存在していることを明らかにされました。1,200 余名の児童生徒が在籍する当校は、ロスのあさひ学園に次いで世界で 2 番目に大きな補習授業校。こういう日本人学校や補習授業校は、それぞれの地元地域の特色を反映し有志が設立、運営している学校で、パブリックでもない、プライベートでもない、またその両方を備えた教育施設であると分析されました。また、補習授業校の「補」の意味は、足りないマイナス部分を補うということでは決してなく、海外に居住する特定の条件下にいる子供達をプラスの部分でサポートするという意味で捉えたいと発言されました。

青柳伸之事務総長は、「サンフランシスコ日本語補習校、40 年の歩み」をスライドによって紹介し、1968 年の北加日本商工会議所内の一部組織として発足した当初から、翌年の正式な創立、1986 年にサンノゼ小学部開校、1992 年にサンノゼ中高部開校の

経緯を当時の懐かしい写真を通して歴史を振り返りました。更に現在の校歌が 1989 年に制定されたことや、それ以前にサンフランシスコ中高部牛島主幹の作曲になる「隠された校歌」の存在などの裏話を興味深く語られました。

「補習校の現状と課題」というテーマでは、植木進策校長が、児童生徒数低減による派遣教員数の減少を契機として、地元スタッフによる学校運営の強化のために 2007 年度から実施された主幹制度が次第に定着していること、その他の改革を継続的に取り組むことの大切さを強調されました。また教育の上で「信頼」を基軸にし、今後の取り組みの上でできることとできないことの見分けることの大切さも強調されました。

それに引き続き、松波博之理事は、当校の「運営の現状と課題」と題し、様々なデータを分析し児童生徒数の推移やベイエリアに置ける他の日本語教育機関との比較検討の中で当校のポジショニングを確認する必要性を強調。多様化する児童・生徒に対する対策案として、教員の指導力強化、独自の教材開発、ティームティーチングなど様々な方法により現行のクラス編成を維持した上での改善方法を重視する理事会の方向性を発表。今後の理事会で引き続き検討、対応する決意を語られました。

当校高等部 SF 校を 1987 年に卒業した唐橋良行氏は、補習校に共に通った学友や兄弟との思い出や生徒数が毎年増え続けていた当時の様子、卒業後に補習校卒業生との偶然の出会いなどを語って頂きました。現在は、補習校の保護者でもある同氏は、卒業生同士の交流を深めるために同窓会の発足を提案されました。

当校高等部 SJ 校 2 年生の榎本才志郎君は、生徒会に所属した時の楽しさ、様々な個性のある友人達との出会いと別れ、けんか別れしたままで転校していった友人への後悔の念など補習校に通う生徒の心の揺れを共有してくれました。また一方通行ではない自分達でつくる授業や趣味を共有できるクラブ活動、お互いが尊重できる学習環境など貴重な提言がありました。

ご自身も韓国、オーストラリア、米国で補習校に通った経験のある長嶺文子総領事ご令室は、「補習校と私」と題する特別講演をされました。海外で生活する日本人児童生徒にとっては、日本への愛国心が自然に生まれ易いことや、日本人としてのアイデンティティを育てる上で、同じ境遇にいる友人達と出会える補習校は「オアシス」であったと語り、補習校で教鞭を執られていた先生方の弛まない御尽

力に対して敬意を表されました。

昼食は、レストラン三船さんのご好意により御弁当を寄付して頂き快晴のバルコニーで昼食を囲んで歓談が続けられました。

午後の部では、北加日本商工会議所 (JCCNC) の中川淳子事務局長が座長となり各方面からの御提言を頂きました。JCCNC の富樫正之教育委員長は、JCCNC と当校との関係が時代とともに薄れて来ている事実を指摘され、地元の学校の選択肢について広報の必要性を語られました。在サンフランシスコ総領事館の小川康弘領事からは、1) 国語学習の重要性、2) 現地校で落ちこぼれている生徒達をフォローアップ、3) 安全対策の重要性について御提言を頂きました。

保護者会からの提言として、三宅孝明保護者会代表会長は、子供達のモチベーションの向上と保護者のモチベーションの向上の重要性を語り、前者の解決策として授業の工夫、課外活動、社会見学などの利用や、子供達の精神状態のケアのために生徒のモニタリング、後者の対策としてネットや非公式のミーティングなどを利用した双方向のコミュニケーションの確立や学校の明確な目的の確認の必要性などを訴えました。

教員研修受け入れ校の岩崎陽一校長 (福岡県篠栗町立北勢門小学校) は、当校の主幹、教員が現地研修を通してどれだけ大きな成果が上がっているかについてご報告されました。また、ネットなどを通じた研修の可能性についての質問に岩崎校長は、教育は「生もの」であるとし、現場の指導の重要性を強調されました。

ベイエリアの他校からの御提言として、三育学院サンタクララ校、吉田栄一校長は、「目指せ！こんな日本語補習教育」と題し、国際人になるためには豊かな心、人間力が大切であることを強調、ありのままの自分が受け入れられ、ありのままの他人を受け入れる環境を造り上げることが大切であると力説されました。また、今後の日本語補習教育の方向性として、ベイエリアの教育ネットワークを個人レベルで広げ将来的に強い関係を築くことの重要性を熱心に語られました。

「これからの補習校に望むこと」と題して 40 周年記念行事実行委員会の浅尾委員長が座長となりパネルディスカッションが行われ、井上国際交流ディレクター、富樫 JCCNC 教育委員長、小川領事、吉田校長、植木校長、三宅代表保護者会会長が参加され、ベイエリアの教育ネットワークの必要性、海外赴任する保護者への広報の必要性などが議論され

ました。

カリフォルニア大学バークレー校教授、東京大学数物連携宇宙研究機構長・特任教授かつ当校元保護者会長・理事長である村山斉氏の基調講演では、笑いを交えてご自身の補習校体験や帰国後のお話を共有されました。補習校の生徒達は、「日本と米国の良いところを両方身につけられる」「世界一ラッキー」な存在であり、「一つの考え方にしぼられないでもっと広い物の見方ができる」と補習校生徒を応援されました。村山氏は、また補習校の役割は、「日本人を育てるのではなく、地球人を育てる」ことであり、「子供本人にとって一番よい形」を望み、日本人のアイデンティティを子供達に「押し付けるのではなく、理解を促す」ことが大切と強調されました。

纏めとして 40 周年記念行事実行委員会、安副委員長が総括を述べシンポジウムは一旦閉会しました。その後、和やかにレセプション・夕食が催され、ご参加頂いたポート・オブ・サクラメント補習授業校の林ヶ谷昭太郎校長、南アラメダ郡仏教会日本語学園の大谷滋子校長、下田範幸 JCCNC 元教育委員長、SF 校の牛島主幹、デイシー主幹、SJ 校の太田主幹、城田主幹など多数の方々にもご挨拶を賜り引き続き意見交換が行われました。その後、当日同時開催された補習校の写真展の成果について保刈実行委員が発表され、一日のイベントは幕を閉じました。



最後になりましたが、シンポジウムにご参加頂いた皆様、報道関係の皆様、当日ボランティア協力を頂いた皆様、ご寄付を頂きました企業、皆様へ深く感謝申し上げます。更に、今回のシンポジウムの企画運営にご尽力頂きました浅尾一郎実行委員長を始め 40 周年記念行事実行委員会の皆様、特に日夜を徹

してシンポジウム企画の細部まで心を配って頂いた安俊弘副委員長のご努力に厚くお礼申し上げます。素晴らしいシンポジウムを実現して頂き本当に有難うございました。

「めざす補習校像検討委員会」発足

(小西理事長)

8 月 22 日に開催されたサンフランシスコ日本語補習校創立 40 周年記念シンポジウムが大成功に終わり、各方面から多数のご提言を拝聴しました。2009 年度理事会としてはこれらの一つ一つの貴重な御提言を真摯に受け止め、引き続き調査、検討していくために「めざす補習校像検討委員会」を発足しました。

「めざす補習校像検討委員会」は、多様化する児童生徒や保護者のニーズに答えつつ、より効果的な学習環境を提供し、安定した学校運営を実現できるよう、以下の調査内容を検討し、将来に向けての長期的展望を見定めるために理事会へ答申することを目的としています。

< 調査内容 >

1. 学校運営の基本方針と教育目標を吟味、再確認し、これらに沿った学校運営が行われているか。
2. 40 周年記念シンポジウムの参加者からの提言内容についての調査。
3. 2005 年度将来像検討委員会報告や人事検討委員会報告の提言の効果と残された課題。
4. 理事会からのシンポジウム報告内容に基づく現状の課題の対策案の検討。
 - ・ 多様化する児童・生徒への対応策
 - ・ 「自立した補習校」の確立のための対策
 - ・ 保護者、地域社会との関係改善策
 - ・ 学校運営の一貫性と柔軟性のための対策

「めざす補習校像検討委員会」の委員長として 松波博之理事を選任し、そのリーダーシップのもとに各課題の吟味や調査、対策案の検討を行って頂き、1 月末までに理事会に答申書を報告して頂く予定です。皆様へは、追って「めざす補習校像検討委員会」の方から進展状況をお知らせ致します。

今後とも皆様の御支援御協力をお願い申し上げます。

第二回(定例会) 三回(特別会) 四回(特別会) 理事会報告

(藤井理事)

第二回理事会は、6 月 11 日午後 5 時からサンタクララの NEC 社会議室で開催され、理事会の本題に入る前に、40 周年記念行事実行委員会(「実行委員

会)」との合同会議を持ち、実行委員会を代表して浅尾委員長、安副委員長、松波会計担当が、シンポジウム、メインイベントについての企画案と会計報告の後、質疑応答が行われました。その後、理事会では、実行委員会に\$5,000を醸金して40周年記念行事の基本財源として使用することを決議しました。次に植木校長より学事報告、三宅保護者会代表会長より保護者会報告が行われました。また、橋都理事が一身上のご都合により日本に帰国されたため、橋都理事の理事席を本年度は欠員とすることを決議しました。次に事務総長より報告があり、昨年度理事会の承認に基づき平成21年度の招聘教員2人(猪俣先生、松本先生)が、6月23日にSF校で、6月24日にSJ校で研修授業を行うことを報告、また本校からは池田教務主任と安武講師が日本で研修する予定であることを報告しました。また、高等部入学規定を見直し、公正な入学、転編入基準を設定するべく修正を行う必要性が確認されました。小西理事長からは、北加日本商工会議所(JCCNC)の富樫教育委員長から報告があり、昨今の経済不況を踏まえ当校へ毎年贈られる寄付金額とその方法の見直し中との発表がありました。松波法規委員長からは、法規委員会のアクションプランの報告並びに州法を遵守すべく定款見直しの費用の付議があり承認されました。松波法規委員長は、引き続き当校のウェブサイト改善プロジェクト委員会の正式発足を提案し、ホームページを改善することにより保護者、地域支援者との関係改善を行うべく予算、スケジュール、推進体制が承認されました(当該予算は、前年度のJCCNCからの寄付金を充てる)。賀川副理事長から40周年記念行事の告知を十分に行うための手段として期間を限定して保護者へのメルマガの配信について付議があり承認されました。久保田理事からは社会理科学科の意義を再検討する付議が出され、当校の長期的学校運営方針を確認した上で議論されるべき課題との合意があり、シンポジウムに向けて理事会としての学校運営方針を更に検討するとの結論で午後10時半に閉会しました。

7月30日に第三回理事会(特別会)がNEC社会議室で開催され、理事会代表としてシンポジウムで発表予定の松波法規委員長が、当校の「運営の現状と課題」について模擬発表を行い当校の学校運営方針を含め議論を重ねました。

8月18日に第四回理事会(特別会)が再度招集され、シンポジウムで発表予定の青柳事務総長が、「40年のあゆみ」としてスライドによる模擬発表、松波理事の修正版の模擬発表の後、更に議論を重ね、小

西理事長の付議で「めざす補習校像検討委員会」の発足が承認されました。8月19日は、40周年記念行事実行委員会のメンバーとシンポジウムの前打ち合わせが行われました。

招聘講師研修報告

(松波理事)

6月23日(火)にSF小・中学部、6月24日(水)にSJ小・中学部でそれぞれ「招聘講師研修」を行いましたので、ご報告致します。本研修は、教員の教育力向上を目的に、岩崎元校長先生(現在、福岡県北勢門小学校校長)のご支援のもと2006年度から実施している現地採用教員研修プログラムの一つで、今回で三回目になります。今年度は、現役でご活躍中の猪俣清貴先生(国語教諭、福岡県須恵町教育委員会学校教育課長)、松本貴之先生(数学教諭、福岡県新宮中学校)のお二人に来て頂きました。猪俣先生には「詩を楽しもう」「詩を味わおう」を小学部向けに、松本先生には「道徳」「一次、二次方程式の解き方」「平行と合同・証明」を中学部向けに、それぞれ模範授業を行って頂きました。両先生におかれましては、日本での忙しい教務スケジュールの中での来米にも関わらず、周到に準備をしてくださって頂き、本校の授業スケジュールの中で上手く繋がりのある授業になるようご配慮頂きました。



(SJ 中学部の数学授業にて教鞭をとる松本先生)

実際に SJ 中学部の模範授業を見学させて頂きましたが、生徒を引きつける導入方法、生徒を積極的に参加させる授業進行、生徒から出てくる様々な意見をすべて受け止めながら最終的に授業の狙いに結びつけていくところなど、大変参考になる授業をして頂きました。実際に、模範授業を見学された先生方も、授業の進め方などを熱心にメモしていらっしゃいました。また、5時限目終了後には、教員向けに具体的な指導方法や単元毎の学習指導案の作

り方などをご紹介頂きました。先生方の一層のレベルアップに役立つ事ができたと思います。



(SF 教員向け研修風景、猪俣先生は中央奥)

理事会からは、当日授業スケジュールの都合で見学出来なかった先生向けに、また今後の教員研修教材として、模範授業の様子をビデオ撮影し DVD 編集したものを寄付致しました。是非ともこのような研修の機会を継続的なものにし、子供たちの学習の助けにしたいと思います。

最後に、本校の児童・生徒たちにすばらしい授業をして下さり且つ教員に様々なノウハウを教えて下さった猪俣先生、松本先生にお礼を申し上げます。

日本研修について

去る 7 月 6 日～11 日、中高部 SJ 校の池田浩子先生および安武和子先生が、福岡県糟屋郡篠栗町の公立校にて管理職実務研修を受けました。両先生の研修報告は当校ホームページの“お知らせ”内にてお読みいただけます

(<http://www.sfjlc.org/menu/menu-2009.htm>)。

第 5 回北米西海岸補習授業校連絡協議会に参加

(小西理事長)

去る 8 月 24 日、25 日にサンディエゴにて第 5 回北米西海岸補習授業校連絡協議会が開催され、植木校長、井上教頭、益子教頭、デイシー主幹、青柳事務総長、小西の 6 人が参加しました。「補習授業校の現状と今後の望ましい在り方について」をテーマに全体会が開催され、文部科学省の井上恵嗣国際交流ディレクターも参加され、補習授業校の現状と日本政府の支援基準などについて発表をされました。その後、分科会として、派遣校長部会、派遣教頭部会、主事・主幹部会、事務局・運営委員会部会にそれぞれ参加し、お互い貴重な意見交換が熱心に行なわれました。

図書寄付

元理事・保護者役員の橋都浩哉様、元保護者会役員の藤原忠司様より、幼稚部・小学部 SF 校へ合わせて約 100 冊、前学校長である岩崎陽一先生より、全校向けに約 130 冊の図書を寄付していただきました。厚く御礼申し上げます。

補習校ホームページ改善プロジェクト

(賀川理事)

本校のホームページも立ち上げから 10 年以上が経過し、当初は斬新であったデザインや機能も、最近では保護者の皆様から「欲しい情報がどこにあるのかわかりづらい」といったコメントを頂くようになりました。理事会では、ホームページを「補習校から社会に開かれた窓」と捉え、この窓を通じて、社会、保護者の皆様からの信頼を得ながら、一層の学校運営へのご協力とご参加を得ることが重要であるとの認識に立ち、本校 40 周年を機に、全面リニューアルすることに致しました。今年度内のリリースに向けて 6 月よりプロジェクトチーム WEB2009 (Web Enhancement Board) を編成し、下記のような機能を備えたホームページを作成することを目標として、積極的なディスカッションを行っております。

- ・ 学校の顔としての広報宣伝機能
 - ・ 各種書式のダウンロード機能
 - ・ 行事がわかるイベントカレンダー機能
 - ・ 授業の情報や、先生からの連絡など、生徒と保護者のための情報共有機能
 - ・ 必要な人が必要な情報をアクセスできるような検索機能
 - ・ 写真などを補習校会員のみが共有できるような機能
 - ・ 現在補習校関連で分散してしまった情報を集約
- 現在は、本校理事を中心とするボランティアメンバーにて、内容の検討や規定に関すること、実装の方法など、多岐にわたる問題をひとつひとつ解決し、本格運用に向けて努力しております。ホームページの活性化を通じて、学校と保護者の皆様とのより良い関係構築に貢献できればと考えております。本プロジェクトへのご意見ご要望がございましたら、担当賀川(mkagawa@hotmail.com)までご連絡下さい。

40 周年記念行事実行委員会からのお知らせ

(脇田理事)

実行委員会では、SF 校・SJ 校の児童・生徒が一同に会する創立 40 周年記念合同イベントを 10 月 18

日(日曜日)午前 10 時より、San Jose Municipal Stadium (588 E. Alma Ave, San Jose)にて開催される**イベントの参加申し込みをウェブサイトにて開始致しました**。お申し込み頂いた方にはもれなく抽選券を差し上げます。小学生対象の大型カルタ取り、中高生、保護者対象の 10 人 11 脚の出場者やフリーマーケットの出店希望者も同時に募集しております。その他、当日には、記念式典、補習校ウルトラクイズ、楽しい子供ゲームコーナー、豪華賞品があるオークションや参加者全員で作る人文字の航空記念撮影など盛り沢山のプログラムをご用意しております。皆様、奮ってお申し込み下さい。お申し込み、お問合せは、www.sfjlc40.org/ までお願い致します。

オークランド A's のご好意により A's 対シアトルマリナーズ戦(9月5日)のチケットを頂きました。40周年記念イベントの一環として約 300 名の補習校関係者の皆様と親睦を兼ねて野球観戦に出かけます。ご寄付頂きました皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。なお、ご寄付頂いた方々のお名前はウェブサイトにてご報告させて頂いております。

人事異動

退職 小 SF 教員 井上京子(6月27日付)
 採用 小 SF 教員 馬屋原法子(8月29日付)
 退職 小 SF 教員 鈴木圭子(6月27日付)
 代行 小 SF 教員 島田りか(8月29日付)
 退職 幼 SF アシスタント 藤田恵輔(6月27日付)
 採用 幼 SF アシスタント 関崎大地(8月29日付)
 退職 中高 SJ 教員 原田誠(6月27日付)
 採用 中高 SJ 教員 川嶋研一(8月29日付)
 退職 小 SJ 用務 櫻井勇輔(6月27日付)
 採用 小 SJ 用務 大江裕希(8月29日付)

事務局よりお知らせ

9月、10月の主な行事予定

月	日	行事予定
9	5	中高部前期期末テスト
9	26	前期終業
10	3	後期始業
10	17	中高部授業参観/個別面談

教科書配布(下)について

8月29日に後期教科書(小学部のみ)を配布いたしました。ただし、海外子女教育財団等ですでに下記の教科書を受領している児童は、配布の対象になりません。万一受け取られた場合にはご返却ください。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語(下)(各学年用)						
社会3・4年用(下)						
社会5年用(下)						
社会6年用(下)						
算数(下)(各学年用)						
理科4年用(下)						
理科5年用(下)						
理科6年用(下)						
生活1・2年用(下)						
図画工作1・2年用(下)						
図画工作3・4年用(下)						
図画工作5・6年用(下)						
給付教科書冊数	3	2	4	3	5	4

* 1年生の算数(下)はありません。

* 上記以外及び中高部には(下)の教科書はありません。前期のものを引き続き使用します。

平成 22 年度第 2 回高等部進学説明会開催のお知らせ
 現中学 3 年生保護者向けの平成 22 年度高等部進学説明会を 10 月 10 日(土)両校にて開催致します。

* サンフランシスコ校

オープンスクール：午後 12 時 50 分～1 時 40 分
 高等部各教室

進学説明会：午後 1 時 50 分～2 時 40 分
 1 階カフェテリア

* サンノゼ校

進学説明会：午後 1 時～1 時 40 分
 C 教室

オープンスクール：午後 1 時 50 分～2 時 40 分
 高等部各教室(A・B)

学校図書返却のお願い

夏休みに貸し出した図書の返却を各校で行っています。夏休み用に借りた図書は、早急に返却をお願い致します。

「やまなみ」はサンフランシスコ日本語補習校理事会により月 1 回発行されます。

発行人：小西光洋

San Francisco Japanese Language Class, Inc.

760 Market Street, #816, San Francisco, CA 94102

電話：415-989-4535 FAX：415-989-2542

電子メール：理事会・事務局 office@sfjlc.com、学校 sfjlc@msn.com

ホームページ：http://sfjlc.org

理事会および学校事務局へのご意見・ご質問等を歓迎します。匿名でのお問い合わせ等には一切お答えいたしかねます。

無断複製・転載を禁ずる。©2009 All rights reserved.